

倉吉市せきがね湯命館及び関金都市交流センター改修事業について

1 はじめに

倉吉市では、せきがね湯命館及び関金都市交流センターについて、施設老朽化、燃料費・物価高騰、利用環境の変化等を踏まえ、施設の大規模改修について検討を進めている。

本説明会では、現時点での改修方針及び考え方について、地域の皆様に説明を行うもの。

2 施設の現状と課題

(1) 施設老朽化

- ・せきがね湯命館は平成7年開業から31年が経過し、設備老朽化が進行、維持管理費、修繕費が増加しており、燃料費・物価高騰の影響が大きく大規模な近代化改修が必要な状況となっている。
- ・関金都市交流センターについても同じく老朽化が深刻で、ホール機能は利用が限定的であり、改修と併せて施設の活用方法について対策が必要な状況にある。

(2) 利用状況（令和7年度）

施設名	利用者	レストラン利用	備考
せきがね湯命館	88,457人	24,787人	地域の日常利用に加え、観光利用も一定数存在している。特にレストランは利用者の4人に1人が利用していることが特徴。
関金都市交流センター	515人（5回）	—	里見まつり、廃線跡まつり、その他イベント等で利用は限定的である。

(3) 運営状況

- ・コロナ禍以降、燃料費・物価高騰の影響により赤字傾向。
- ・指定管理料による運営支援を継続（令和7年度 24,500千円）
- ・利用者数及び売上は一定水準を維持しているが、現状のままでは将来的に安定した施設運営が難しくなる。

3 アンケート結果から見える利用者ニーズ及び改修の方向性

令和5年度に、主な利用者である関金地区、上小鴨地区、北谷地区住民を対象にアンケート調査を実施した。回答数876件（回答率46%）

(抜粋) Q4 「老朽化したせきがね湯命館を変えるとすれば、どのような変化を希望するか」（複数回答可）

項目	回答数	構成比
1 飲食の充実	394	30.26%
2 観光客の集客	354	27.19%
3 企画（健康講座等）の充実	136	10.45%
4 ユニバーサル対応の強化	124	9.52%
5 付帯事業（マッサージ等）の充実	117	8.99%
6 諸室・会議室の充実	79	6.07%
7 その他	98	7.53%

アンケート結果や利用実態を踏まえると、入浴、食事、休憩、滞在といった、「利用者数が多く、幅広い世代が日常的に利用する機能」の強化が必要と整理している。

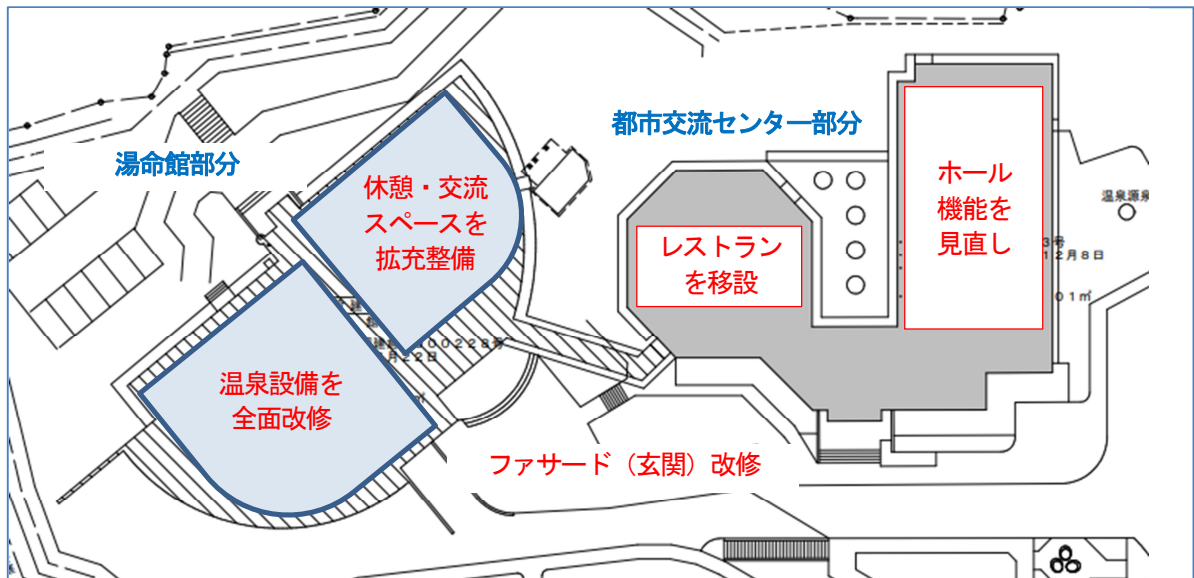
また、観光客の集客、滞在時間延伸、地域消費拡大など、地域活性化につながる機能強化も求められていると考える。

このことから、この度の改修にあたっては、従来の温泉、健康、食、交流拠点としての施設機能のうち、利用実態とニーズの高い食の要素を伸ばし、利用者の滞在時間、交流、施設利用額の向上を目指す。

4 基本的な改修方針（資料2）

施設	改修方針案
(1) せきがね湯命館	<ul style="list-style-type: none"> ・浴場設備更新及びサウナ機能拡充 ・高齢者配慮（手すり、段差解消等） ・休憩・交流機能強化 ・設備更新による維持管理コスト削減
(2) 関金都市交流センター	<ul style="list-style-type: none"> ・レストラン機能移設（食の拠点化） ・入浴利用者以外の利用促進 ・地域利用と観光利用の両立 ・ホール機能は既存公共施設と役割整理を行う。

5 改修箇所のイメージ



6 今回の改修で重視したい考え方

(1) 利用者が最も多い機能を優先（入浴・食・休憩・滞在）。特に交付金の採択を受けるに当たり重視した地域産品を活用した食の拠点化を重点事項として位置付けた。

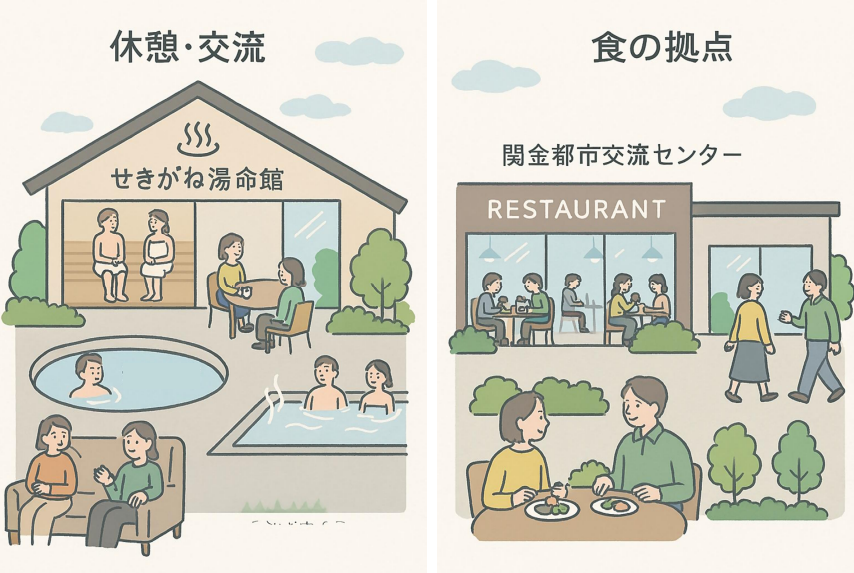
なお、健康増進やウェルネスについては重要な視点であると認識しているが、専用施設の整備ではなく、交流・休憩機能の充実を図りながら、指定管理者等と連携したソフト事業により対応することを基本とする。

(2) 幅広い世代が利用できるよう、せきがね湯命館を「訪れる場所」から「滞在し、交流し、楽しむ場所」として利用できる日常利用と観光利用を両立できる施設を目指す。

※今回の改修は、浴場の改修、レストランの移設だけが目的ではなく、温泉に来て、お風呂に入って帰る施設から、ゆっくりと過ごし、交流し、楽しめる場所へ転換することが目的。

(3) 国の交付金を活用することから限られた事業期間・財源の中で実施する。（3年間、10.4億円）

せきがね湯命館改修事業（案）について

事業計画期間	令和8年度から令和10年度まで	総事業費			1,041,272千円
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・せきがね湯命館の温泉、健康、食、交流機能の向上を核に、“食の拠点”を整備し、観光客の域外流出を防ぐ。 ・施設内での滞在時間を増やす導線設計、メニュー開発による入浴前後の消費の積み上げを目指す。 ・浴場、サウナ等の更新により、利用者満足度の向上による新規顧客及びリピーターの確保を図る。 				
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯命館と隣接する関金都市交流センターを一体的に改修し、レストラン機能を都市交流センターへ移設。外部から直接利用できる“食の拠点”を形成する。 ・湯命館側は旧レストラン部分等を活用して休憩・交流スペースを拡充し、滞在中の観光消費を強化する。 ・整備にあたり浴場・サウナ等の更新により施設の魅力を高め、ターゲットとする来訪者の滞在時間・回遊・消費を拡大する。 		<p>【事業イメージ】</p>  <p>The illustration is divided into two panels. The left panel, titled '休憩・交流' (Rest & Exchange), shows a building labeled 'せきがね湯命館' (Seきがね Onsen no Kaminari) with people sitting on a bench and talking. Below it, a hot spring pool is shown with people bathing. The right panel, titled '食の拠点' (Food Hub), shows a building labeled '関金都市交流センター' (Kannami City Exchange Center) with a 'RESTAURANT' sign. People are shown dining at tables and walking outside. The overall style is a simple, colorful line drawing.</p>		
	<p>【整備経費】</p> <p>1 総事業費 1,041,272千円</p> <p>(1) 設計費 35,420千円</p> <p>(2) 工事費等 1,005,852千円</p> <p>※中東情勢などもあり、総事業費は今後変動が見込まれる。</p> <p>2 財源</p> <p>(1) 地域未来交付金 520,635千円</p> <p>(2) 過疎債 515,400千円</p> <p>(3) 一般財源 5,237千円</p> <p>※経費の半分は、国の地域未来交付金を活用。もう半分のうち基本設計を除く経費については過疎債を適用する。基本設計部分の残り半分等については一般財源で対応する。</p>				
事業スケジュール	年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	内容	基本設計・実施設計		改修工事等	開業開始